

2007.1月号

NIPPON GOOD PARTS

NGP NEWS

No.189

エコプロダクツ2006で一般ユーザーにPR活動

一般ユーザーへ使用済自動車の 適正処理とリサイクル部品の活用 促進を訴える!!

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合では、12月14日から16日まで東京ビッグサイトで開催されたエコプロダクツ2006に出席し、使用済自動車の適正処理や無料見積り、廃車引き取りの「くるマック」の紹介など一般ユーザーに向けたPR活動を行いました。

国内最大規模の環境展
「エコプロダクツ2006」に
NGPブースが登場!!

12月14日から3日間開催されたエコプロダクツ展は今年で8回目を迎える国内最大規模の環境展で、来場者数も15万人を集め各産業界からも多数の企業がブースを出展。自動車業界からもメーカーをはじめとした自動車関連企業が多数出展していますが、自動車リサイクル業界としては今回、NGP協同組合が初のブース出展となりました。

低公害車や電気自動車など環境に優しいクルマの開発には一般ユーザーの関心

もきて高まっていますが、一方で使用済自動車の適正処理やリサイクル部品を活用した自動車の修理などリユースの促進・啓発はまだ一般ユーザーへの認知不足から進んでいないのが現状です。

NGP協同組合では今回のエコプロダクツを“車を修理に持ち込む一般ユーザーと直接触れ合う貴重な場”と位置付け、“安心・安価で資源の再利用にも繋がるNGPブランドのリサイクル部品”を展示しリユース意識の拡大を訴える一方、一般ユーザーが適正に廃車を処理する為の支援事業「くるマック店」の全国展開



子供から年配の方まで多くの来場者の方がNGPブースにお立ち寄りいただきました

をリーフレットや卓上カレンダーの配付等を通じて広くPRしました。

NGP協同組合では今後も一般ユーザーへの使用済自動車の適正処理とリサイクル部品の活用促進をエコプロダクツなどのイベント等を通じて、一人でも多くの人に自動車のリサイクル、またリユースが人と地球に優しい循環型社会形成に役立つことを訴えていきます。



**行政が一時抹消
登録中車両の
追跡調査を実施**

国土交通省、経済産業省、環境省は自動車リサイクル法の円滑な運用を継続的に図るため、一時抹消登録中車両の状況調査を実施します。

自動車リサイクル法では自動車の所有者は、使用済自動車を自治体の登録を受けた引取業者に引き渡すこととなり、一度、使用済自動車として引き取った引取業者は、当該自動車を自動車リサイクル法に則して処理することになっています。

一方で、道路運送車両法(以下、車両法)では自動車の所有者に対し、自動車が解体された場合は解体届又は永久抹消登録をすることを義務付けています。

しかしながら、自動車リサイクル法を所管する経済産業省・環境省では一時抹消登録中のまま不適正に処理されている恐れのある自動車に違法事業者の取り締まりを目的とした追跡調査を行う必要があると判断し、すでに調査機関の選定も終わり、今年度中の調査実施も決まりました。



**解体自動車
(廃車ガラ)の
輸出申告に
電子マニフェスト
添付を義務化**

経済産業省、環境省では、無許可で解体された解体車(廃車ガラ)が輸出されている実態を憂慮し、不正輸出防止のための施策として輸出申告時に解体処理が適正になされたことを証明する電子マニフェストの画面印刷物を提出することをこの度、義務付けました。

これは解体自動車を輸出する場合、自動車リサイクル法に則り適正に処理されなければならないにも関わらず、今年5月に新潟港において無許可解体等による解体自動車が不正輸出される報道等があり、事態を重く見た行政ではこうした不正輸出を防止するための措置を講じました。まず、12月1日から新潟県の新潟港(東港・西港)、直江津港及び柏崎港において、解体自動車を輸出する場合は輸出申告時の電子マニフェストの添付義務付けがスタートしました。「無許可解体車両の輸出には税関やその地域の警察と協力関係を密にして連携をとって違法業者の摘発を行います。」(経済産業省)廃車ガラの輸出に関する電子マニフェストの添付義務化は順次全国展開予定です。



中古部品 & リビルト部品 活用術 Vol.3

注文時に役立つ情報(機能部品etc...編)

今回の活用術はドライブシャフトなどの機能部品です。機能部品は中古部品だけでなく、高品質のリビルト部品も多くあるので、絶対にオススメのリサイクル部品です。

ハブナックル

アンチロックブレーキ(ABS)の有無やリアについては4WS(ハイキャス)の有無を確認して下さい(これは類別・型式指定でわかります)。

メンバー、ロアアーム、スタビライザーetc...

エアサスなどの機能の有無。基本的に類別・型式指定を確認できれば大丈夫です。

ストラット

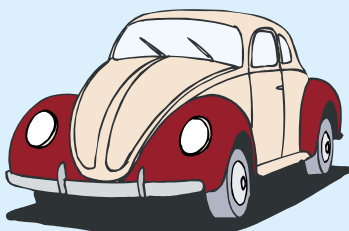
エアサス、車高調整などの機能があるかどうかをチェックして下さい。中には本体に刻印のある車種もあります。

ドライブシャフト

まずはマニュアルかオートマか、2WDか4WDかを確認して下さい。次にABSの有無をチェック。リアドライブシャフトの場合は取り付け部の穴の数にも注意して下さい。

ハンドル・ギアボックス

パワステ用、ノーマル用があるので注意して下さい。ラック&ピニオンとボールナットタイプがあり、センサー付きや4WS(ハイキャス)の有無でも変わってきますので注意して下さい。



もちろん、皆様もよくご存知なことばかりだと思いますが、正確で細かい情報をいただければ、早く間違いのない商品が届くので、少しでも作業効率アップのお手伝いをすることができます。

もし分からないことや不明な点がありましたら、NGPのフロントマンに遠慮なくお尋ね下さい。

このコーナーでは、今後リサイクル部品に関するお役立ち情報を掲載していきます。

兵庫県自動車車体整備協同組合青年部 が多田自動車商会を見学

去る12月2日(土)に兵庫県自動車車体整備協同組合の青年部のメンバー17名がNGP協同組合関西支部の多田自動車商会の工場見学に訪れました。

見学会はまず同社の説明と自動車リサイクル業界、リサイクル部品についてのレクチャーが行われ、その後解体工場及び倉庫内部の見学が行われました。

参加者は、日頃使っているリサイクルパーツが使用済自動車から取り外されて一つ一つ丁寧に商品化されていくまでの最新の生産技術・設備の数々に関心を持った様子で、工場を案内する多田会長や平田社長の話にも熱心に耳を傾けていました。

特に大型のニプラがクルマを解体していく様子、あるいは自動倉庫でリサイクルパーツが在庫管理されるところでは興味深く作業に注目し、最新の自動車リサイクル事情に関心を寄せていました。



解体作業工程の説明を受ける
兵庫協青年部の方々



自動倉庫の大きさに
驚いていた様子

11月1日から「整備のための再封印」が可能になりました!!

11月1日にナンバープレートの封印取付けに関する規定が大幅に改正され、「整備のための再封印」が事業場でも行えることになりました。これまでは運輸支局や自動車検査登録事務所への「現車持ち込み」が必要でしたがユーザーの利便性向上を図る目的で規制緩和がなされました。事業者にとっても業務効率の改善につながるなどメリットは大きいものの、事業場で再封印を行えるのは、分解整備では指定整備事業者、また車体整備では優良自動車整備事業者認定規則の認定を受けた「いわゆる「特認工場」」に限られるという条件付きです。

今年5月に大幅改正された車両法では、封印の委託についてもユーザーの利便性向上の観点から、これまで運輸支局等への現車提示が必要だった「整備のための再封印」「滅失・き損した場合の再封印」「離島での封印」について、委託範囲の拡大が盛り込まれ、11月1日に施行されました。

指定整備事業者についてはこれまでも自ら販売する中古車の新規登録分については封印の委託が受けられるようになっていました。

今回の制度改正による「整備のための再封印」は、「取付け代行」として認められることとなり封印の取付け方は「出張予備検査方式」となります。このため、実際に封印取付けを事業者が行うためには、各都道府県のナンバーセンターとの受託者契約が必要となります。その前段の手続きとして、まず全国自動車標板協議会(全標協)と日本自動車整備振興会連合会(日整連)および日本自動車車体整備協同組合連合会(日車協連)との間で基本的事項について確認を行うことになっています。

その後、各都道府県の受託者と各整備・車協との間で封印の管理などについての確認が行われ事業者に対しては各整備・車協を通じて告知が行われることとなっています。その際、受託者となる整備事業者は、各都道府県甲種受託者との間で、封印の受渡しの記録、取付け記録、報告・調査等に関する「確約書」を交わすこととなります。

実際に「整備のための再封印」を行うに当たっては2つの留意点があります。

顧客からの整備依頼の書面 封印を取り外した状況を示す写真 の提示が必



整備工場、板金工場でも封印業務ができます

要となる点です。

一方、今回の改正では整備のための再封印、滅失・き損した場合の再封印に加え、10月10日から全国17地域でスタートした「ご当地ナンバー」への交換についても封印の委託が行われます。ただし、ご当地ナンバーについては指定整備事業者は受託者になることが可能ですが車体整備事業者には認められていません。

今回の封印に関する委託範囲の拡大は、「ユーザーの利便性向上」が目的にありますが整備事業者にとっても非常にメリットの大きい規制緩和であるといえます。ただ、受託者の要件が、分解整備では「指定事業者」、車体整備では「特認工場」であることなど不正防止の線引きも為されました。

NGP 通信欄

訃報

NGP組合員(有)近田商事 代表取締役 近田行雄様の御岳父様竹原一郎様が11月30日にご逝去され(享年84歳)、東円寺(青森県三戸郡南部町)にて12月3日に告別式が行われました。お悔やみを申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

<組合員情報変更>

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東北	倅現代	電話・FAX	電話 0186-29-3990 FAX 0186-29-3770	18年10月31日
東海	倅ウイン	住所・FAX	〒444-0943 愛知県岡崎市矢作町桜海道37番地 FAX 0564-31-1929	18年11月22日

(有)紀南パーツ(和歌山県日高郡)



河村武志社長

関西支部の同社は創業26年になり、親子2代に渡って続いています。社員数は14名(引き取り2名、解体1名、生産が6名。事務系の女性社員が5名)。代表取締役の河村武志氏にお話を伺いました。

「紀州という土地柄、弊社周辺には裕福な農家や仲良くさせて頂いている土建業者が多く、低年式車が数多く入庫します。また高級車の入庫も多いですね。車社会ですから軽自動車も多く、入庫台数の3割を占めています。そして市役所の財政課と道路管理課から、放置車輛も引き取っています。

弊社では何れも先地域密着型経営を心掛けており、電話一本でもすぐに車輛の引き取りに向かう体制が出来ています。土地柄故に決して交通の便が良いとは言えませんが、片道2時間掛けてでも引き取りに向かいます。往復で4時間も掛かってしまうため、社員はまだ業務が始まらない早朝から引き取りに向いてくれ、この点には大変感謝しています。今後はもっと知名度を向上させ、事業拡大と共に社員の給与も上げて行きたいと考えています。

NGPへの加入を決断したのは先代社長で、一番有難いのは加入により各組合員から様々なアドバイスが頂けるようになったことです。皆非常に親切だし、情報も早い。田舎でやっているとなかなか伝わって来ない情報も聞けて非常に助かっています。」



同社外観。豊かな自然の中にあい、街道に面している

ファンの声

(有)ヤマト自動車 (和歌山県西牟婁郡)



秋月史成社長

同社は創業43年になる老舗でBSサミットのメンバーでもあります。両社は紀南パーツの先代が解体業を始めた当時の、共に親子2代に渡る付き合いになります。

代表取締役の秋月史成氏は少年自衛官出身という異色の経歴の持ち主で、陸上自衛隊航空学校を経て航空機の整備、新入隊員教育を手掛け、格闘技にも精通。和歌山県の車体組合の理事、和歌山県青年部会長、近車協の経営委員、日車協連青年部会の幹事といった要職に就いています。加えて同社には武道経験者が非常に多く、社員の段位を合計するとなんと十六段。地元「熊野高校」柔道部の元主将が2人も勤務しています。

「弊社は地域密着型を最重要視し、義理人情を重んじています。工場的美観にもこだわり、事故車を引き取るとすぐに紀南パーツさんに渡します。紀南パーツさんはきちんとした仕事をしてくれ、先代も現社長も信頼できます。法治国家の日本では、当然コンプライアンスが重要です。例えば以前は使用済自動車を流す先は近所の解体工場でしたが、自動車リサイクル法の施行以降は紀南パーツさんに渡しています。信頼できる解体工場でないとお客様に迷惑が掛かるかも知れませんが、また弊社は使用済車輛から部品を取り外すため解体業許可も取得。塗料も低溶剤タイプに切り替えました。NGPの品質と紀南パーツさんの仕事が、様々な分野で役立っているのです。」



実は秋月社長はアントニオ猪木の大ファン。この書は奈良の書道家に依頼したもの

(株)堀尾自動車部品(兵庫県姫路市)



福原光宣取締役部長

関西支部の同社はNGPに加入して5年になり、ISO14001認証も取得しています。社員数は16名で、使用済み自動車の月平均処理台数は約200台、在庫点数は約11,000点です。

今回お話を伺った取締役部長、堀尾光宣氏は関西支部の指導委員でもあり、来年4月の基礎研修会等で新入組合員の指導に当たります。

「NGPへの加入により、自動車解体業者から自動車部品販売業者へと変わることができました。社名も『堀尾自動車解体』から『堀尾自動車部品』へと変更し、周囲の見方も大きく変わりました。

NGPの一番の魅力はやはりその共有在庫で、『あなたの倉庫は私の倉庫』の言葉通り、一匹狼では生きていけません。しかし、同時に自社の在庫の品質が悪くなることはNGPの看板に泥を塗ることになります。ですから弊社は地元のお客様を大切に、自社の品質を高めて行くことでNGPブランドも大切にしています。

加入したことで部品の売上も安定し、やったらやっただけ数字が伸びる、先が見通せる体制を確立できたと考えています。現在ではプレス機、ニブラといった設備の導入も計画しており、さらに広い場所に移転する計画も立っています。また使用済車輛1台から上がる利益を極力高めるために、部品のみならず鉄や銅といった資源としても活用し、輸出も含めた部品と資源の双方で業績を伸ばして行きます。あるものを無駄にせず、どれだけお金に変えて行けるか。それがNGPのリサイクルの精神にも繋がっているのです。」



倉庫には部品が整然と並び、非常に清潔感がある

ファンの声

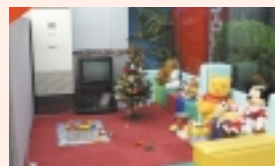
中谷自動車(株) (兵庫県姫路市)



中谷巖代表取締役社長

同社は指定工場で、創業は昭和43年。堀尾自動車部品とは30年来の付き合いです。BOSCH サービスステーション、JAF指定サービス工場の認定を受け、ザレン倶楽部では全国18位。本体の他に自動車販売を手掛ける店舗、鍍金塗装を手掛ける店舗で分業体制を敷き、総社員数は23名。代表取締役の中谷巖氏は兵庫県自動車整備振興会姫路東支部の支部長、全日本ロータス同友会兵庫県支部の支部長といった要職におられます。

「弊社は中谷グループで車のトータルケアを実現しています。一匹狼ではやっていかれませんが、カーコンビニ倶楽部やヤマト車検とも持ちつ持たれつで生き延びるための努力を行っています。リサイクル部品も、現在では全国ネットで部品を探せる組織が増え、大変便利になりました。堀尾自動車部品さんに探してもらえば7割は見つかりますし、十分吟味した上で品物を送ってくれます。うまく使えば経済的にも大きなプラスになりますね。勿論、弊社で引き取った使用済車輛も全て堀尾さんで適正処理してもらいます。ネット上でもこれだけ部品が流通している中ですが、やはり重要な



同社は事務所内も広く、子供が遊べるスペース等、ユーザーの利便性も追求している

のは信頼。もしトラブルがあっても、近場の堀尾さんが対応してくれるので安心です。長い付き合いが、その信頼の証明です。

ザレンも、ロータスも、振興会も、恩返しのつもりで取り組んでいます。これからの若い人間に、弊社が培ってきたものの申し送りをして行きたいのです。」